

## 季節と暮らし

- 9 -

### 春の訪れ

春。暖かい日差しに誘われて、水仙、梅、つばきが花をつけ、ふきのとうが顔を出したと思ったら、コブシ、桜、キクモモの花芽がみるみる膨らんだ。例年なら、コブシ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、キクモモと、順に春の訪れを告げてくれるのだが、今年は一度にやって来た。常緑の木々の落葉も始まって、あわただしい。時がゆっくりと流れたら、きっと生活もゆったりと過ぎていくだろうになと思ひながら、迎えた今年の春。



シデコブシ

でも春はたのしい。外に出ると、下を見ても上を見ても、いのちが芽生え、動きが伝わってくる。耳を澄ませたら、萌芽の音が聞こえそう。いつのまにか、冷たかった土のそこそこを、可愛らしい花をつけて草花の緑が覆いはじめている。

ところで、最近の新聞・テレビは、春が近づくとまず黄砂や花粉情報で、桜前線のお知らせもかすむほど。花粉症の人は、外にもうかつに出られないのかしらと心配になる。昨年4月の座禅洞便り・于海先生の「花粉症と漢方」を読むと、「漢方医学では、肺、鼻、皮膚の三者はつながっているものと考え、予防と治療はこれらに対して行います。外から入った異物を駆除する一方で、体内の過剰な反応を抑えて症状を和らげます」とある。我が座禅洞診療所の職員の花粉症も、漢方薬が症状を和らげているらしい。

花粉症は、アレルギー症の中では軽いものらしいから、まずは空気、水、そしてバランスのよい食べもので「さようなら」をしよう。電磁波からも遠ざかる。そうしたら、春はもっとたのしくなるにちがいない。

冬の訪れとともにシベリアからやって来るジョウビタキが、今年はまだ帰らないで、ゆっくりしている。野良仕事をする傍へ寄ってくる。来たときと違ってふっくらと太って。ゆっくり、時が流れるといいな。

(2008年3月25日記) 松井 和子

## 春一番、梅まつり

3月11日(火)、梅林公園へ梅を観に行きました。前日の雨も上がって暖かい日になり、10時半、公園内のD51に集合。「音楽ひろば」の岩切先生はじめ、総勢8名。梅の香りとそのたたずまいや色を愛でながら、大勢の見物客に混じって、ぞろぞろ…。途中で、記念写真も撮りました。明治の神仏分離令により、瑞龍寺から現在地に移された長寿の神として信仰されていたという篠ヶ谷神社や1945(昭和20)年、豊川の旧海軍工場で働いていた2477人が爆死し、そのうち93名は岐阜県出身者だったので、その人たちの霊を供養、平和を祈るために1978(昭和53)年に建てられた平和祈願像などの傍を通って、一周。



そろそろお腹も空いて、柳ヶ瀬へ。途中、路地にある昔ながらのおいしい豆腐屋さんや瑞龍寺に寄り、帽子屋さんでは格好いい帽子を求めて、「喫茶フィールド」でお昼ご飯にありつきました。小部屋で食事をしながら、話も盛り上がり、本当にたのしい一日でした。また行きましょね。

## 禁煙ごぼれ話

### やさしい提案



「成人識別たばこ自動販売機」なるものができた。これは、未成年者の喫煙防止対策の一環として今年から導入され、この自動販売機を利用するには、成人のみに発行されるICカード、「taspo(タスポ)」が必要。自動販売機に「taspo(タスポ)」をタッチして、成人であることを確認できなければ、タバコの購入ができない。カードの申し込みには写真と身分証明できるものなどが必要で、なんだか手続きが面倒そう。

全国には数え切れない数のタバコ自販機があり、それを全部入れ替えるには莫大な費用がかかる。さらに廃棄する自販機で産廃の山。そうまでしてタバコを買わせるより、これを機に、いっそタバコ自販機の全廃はどうだろう。禁煙? 環境にもカラダにもやさしい提案だと思うが…。

ちなみに、岐阜県へのtaspo導入は5月から。